



＊ 報 會 樹 葉 針 ＊

通 卷 第 九 十 五 號

美 ケ 原

カ ン

何處の會社にも役得と云ふものがあるらしく、五月の中旬に、ある發電所調査の目的で神河内下方の梓川沿ひの道を歩く機會に恵まれ、淺間温泉二泊、白骨一泊と長閑なハイキングみたいな出張に三日を過し、山櫻や山吹の花に眼を奪れ、且は霞澤や焼岳の残雪に心ひかれたのであつた。

時日の都合で高い山へは登れなかつたが、十日土曜の朝松本で體が自由となつたので豫てその心算りでリュックサック等を準備してきた美ケ原へ向ふ。入山邊行きのバスの終點大手橋で下りた頃は、近くの山まで霧がおりてゐて路傍の草の葉にも露が繁い。登る程に青空が現はれてきて身が高まるにつれ、槍穂高邊りの山が残雪豊かに望まれてきた。三城牧場へはよらず、分岐點の茶屋で晝飯をすませ王ヶ鼻へ登りにかゝる。この道は五萬分の一「和田」圖幅には記入がないが、實によい道で、石切場の東を殆ど眞北に向つて登り王ヶ鼻の岩頭に直接出るものであり、眺望もいゝ。王ヶ鼻からは實に廣大な高原をぶらり／＼歩き三百六十度の大觀を恣にして山本小屋へ泊る。穂高の後ろに日がおちると、夜は満月で、蓼科山の偉らかな姿が夜空を限つてはつきり望まれる。

翌日は茶白山、屏峠、三峰山へと山稜を辿つて相變らぬ眺望を愉しみつゝ和田峠へ下つたが、この尾根道も歩きよく眺望のよい頃に一度は訪れられんことを望みたい。

美ケ原も山本小屋が實に感じが良く、人は常住で設備もいゝし冬も勿論使へるので今後益々利用せらるゝものと思ふ。

昭和十六年五月十日(土) 淺間温泉(八・三〇)―松本驛(九・一〇)―大手橋(一〇・〇〇)―峠ノ茶屋(〇・一五―〇・四〇)―王ヶ鼻(二・三〇―三・〇

○—王ヶ頭(三・二〇—三・三〇)—美ヶ原山本小屋(四・三〇)泊
五月十一日(日) 山本小屋(七・〇〇)—茶臼山(八・一五—八・二五)—屏峠(九・三〇—九・三五)—三峰山(一〇・五〇—一一・四〇)和田峠(一・一〇—一・一五)—途中晝食—西餅屋(二・〇〇—二・五七)—下諏訪(三・四〇)

中ゴ—尾根を経て谷川岳へ

K U M A

去る六月七、八の兩日にわたり久方振りに谷川岳へ行つた。會社の連中六人(内一人女性)が同行。谷川温泉を朝六時半頃に出て谷川の本谷沿ひに奥へ進む。渡渉があるので宿を出る時から草鞋。昨日の雨にしつとり濡れた川沿ひの道が久方振りにはいた草鞋を通して柔らかく足裏に傳はる。

牛首の少し先で道もなくなり三、四度の渡渉の後に、約二時間にして二股に着く。本谷の奥に姐ヶ岳が仰がれる。

之から少しがジガ澤を登るとやがて左からヒツゴ—澤が合流する。いづれも流れは細い。こゝから愈々中ゴ—尾根の登りにかゝるので靴にはき代へる。

中ゴ—尾根は人のいふ通りに中々急である。然し大して危い所もなし休み／＼登れば別に苦にもならない。唯雨中や雨の直後などには滑り易いから氣をつけなければならぬ。殊に此の道を下りにとる場合にはさうである。

振りかへると赤城山が左右に長い裾野をのばしてゐる。仰ぐと谷川岳の頂上は右手ヒツゴ—澤の詰めの方に隠れてまだ見えぬ。

對岸の天神尾根は澤山の登山者で大賑ひだ。左手はオジガ澤を距て幕岩が素晴らしい。約四時間にして樹林帯をぬけ岩の出た尖峰臺といふ所に來る。之からは一寸登るとあとはスラ／＼と國境尾根の指導標につく。下の登り口から丁度四時間半だつた。二時頃に頂上につく。遙に苗場が見えた。流石にまだ相當の雪だ。谷川の頂上の雪印も可なり残つてゐる。吾々は此處で一時間許りグリセードの仕方を皆に教授(?)する。はじめての連中許りなので大喜びだ。

三時、流石に人影も少ない。之から西黒の尾根通しを何處までも辿つて國道に出る。三時間と少して土合の山の家に着いた。汽車は七時十八分、いゝ具合に空いてゐた。

近頃では夜行の山旅は連もやる氣になれない。土曜の晝に出て何處かで泊つて日曜を悠くり歩いて來るやうにすればまだ／＼氣樂に行ける。

岳聯の仕事や翻譯などで頭がむしゃくしゃしてゐる時に、こうした簡単な山登りはどうしても必要である。近ちやんが來てゐたので一緒に來ればよかつたのだが都合で來られなかつたのは残念であつた。

以上簡単な走り書きながら御報告まで

(七月二日針葉樹會の席上にて記す)

江戸へ現れの記

A R A

病氣療養の爲め東京へ轉勤となつた。それを利用して、乗鞍から穂高へとラッセルをやつて呉れ相な現役連中を渡り歩き約二週

間滑り廻つた。病氣だから無理は出来ないが、斯くの通り命には別條ないのだから御安心願ひ度い。但しそれだからと言つて偽病ではなく本當の病氣でしかも一寸珍らしいものだから貴重な紙面なれど會員諸兄に御知らせする事にします。

病名は回歸神經痙攣俗に聲帶痙攣 手つ取り早く言へば聲帶の神經痛と思つて貰へば宜敷い。即ち聲帶を動かす回歸神經が何處かで此の障礙場所が分らない―障礙を受けそこから先が不通となつて聲帶が運動せず聲が出ないと言ふ病氣である。聲帶は左右二本正中線の兩側にV字型にあり發聲時には之が正中線に寄つて來てその震動で聲が出る。孫さんの如きは四六時中寄つてゐると思ふがよくも痙攣しないものだと思ふ。尤も此の前の神經痛は神經痛が恐をなして下の方に逃げたのかも知れない。僕の場合は左の聲帶が動かない。回歸神經は左の方が道程が長いのでやられる率が多い相である。七月の月上旬から急に聲が出なくなつて一時は全く普通の聲が出す僅にキー／＼聲が出る丈であつた。この病氣の原因は非常に多いのであるが具體的に此の場合は此の原因とつきとめる事は先づ不可能で、或療法を施して治つたから此の原因だつたか漸く分る程度の厄介さで全然見當も付かない場合も多いと言ふ。發病以來九大、北大、慶應、東大、其他個人醫と相當廻つて歩いたが原因は勿論の事、療法がないと言ふ。大抵の所では放つて置けば自然に治るでしやうと言ふ工合だが、慶應では手術をやつて動かぬ左を右に寄せてしまへとの事だと思つて事もなげに言ふ。東大では電氣を掛けて(Galvanization)見よう、聲は出る様になるが痙攣は治らないでしやうと言ふ。之が十月中旬、

それから今日迄東大へ通つてゐるが經過は非常に良好、聲は殆んど普通になつた。―右の方が正中線を越えて動き左聲帶と平行になる爲め―が十二月の初めから動かぬ筈の左が動き出して徐々に舊に復し始め、この動き方が又今迄の學説と異ると言ふので俄然興味を呼び起し、學用患者となり今日では Charge freeと言ふ工合、山へ行くには格別不自由もなし今年はせい／＼稼ぐ積り故、計畫のある人は○、●現役に限らず御知らせ願ひ度い。會社では本店附と言ふ役目で參事室出勤、仕事は全然なく出勤簿に印を押すのと晝食を食ふのが仕事と言ふ全く有難い所に居ります。午前十一時半頃なら大抵居ります。

因に音聲障礙では東大颯田、慶應林兩博士は日本での權威だそうです。

扱病氣の事は此の位にして、乗鞍穂高で見た現役連中のスキー振りの悪口でも書いて見ませう。

約六年間御無沙汰してゐたのでスキー大衆のレベル向上には驚いた。然し之は表面丈の事で内容の無いのは裝備技術共同様、と言ふのは東京市内でスキーを見て歩いた所恰好や塗りは素晴らしいが木それ自體がなつてない。素人の僕でさへ分るんだから芳賀のおやぢにでも見せたらと思つてゐると、ひよつこり一月になつて上京したので三越の賣れ残りを見せたら、皆腐つてゐる、折れないのが不思議だと言つてゐた。技術の方もその通りで所謂ゲレンデでは何とかこなしても山へ入るさまるでなつてない。ゲレンデで能事終れりとしてゐるのは塗りの良いスキーで満足してゐる様なものだ。

十二月二十一日夜懷しの中央線、カンちゃん日江井に送られて
總勢十五名餘り出發、最近の現役は謙遜なのか人間が良くなつた
のか、曰く『直滑降が出来ない』『廻轉が出来ない』と昔の連中
の自信満々振りに比べて何だか變な氣持、傲慢な謙遜でないかと
スキーを履く迄は内心ビク／＼した位。へばりながら乗鞍スキー
小舎にたどりつけば早速班別編成、班長決定と仲々合理的だと感
心した。いよく／＼スキーを履いて見て現役の主力がスキーは相當
こなしながら業の出来ないのに總コーチ格たる僕はすつかり安心
した。之は研究不足とコーチの無い故か、以下本科連を一人宛槍
玉にあげて見よう。

岩崎 うまくなつたものだと思心するばかり。鶴ヶ池の下りで
見せて貰つたキンタマクリスチャニヤやキンタマボーゲンに初め
て見る妙技にアレ／＼と言ふのみ。キンタマでこんなうまい事
が出来たらキンタマスキー術と言ふ本の出るのも近いうちでし
よう。

大塚 インチキながらクリスチャニヤをあそこまででかした努
力を買ひ度い。岳川の下りはいさゝか變でしたれ、針葉樹會員に
なつたらうまくなりますよ。早く人夫スキーから抜ける事。

林 小樽仕込の輕妙の滑り振りは流石なり。但し山でも轉ばぬ
様又スキーを折らぬ様御注意／＼。

山田 スキーにも強引さが大事です。フアイトを出して強引に
廻轉する事。デツカイ圖體が雪塗れになつてゐるのは餘り見つと
も良いものではありません。

根本 稍優形ながら滑り振りが轉び様迄雲チャンそつくり。

大まかな轉び振りは見て小氣味が良いがお顔に怪我せぬ様ワック
スでも塗つて置いては如何です。

久保 ペンギンもどきに兩手を突き出してヨチ／＼滑るのはや
めて欲しい。クリスチャニヤと尻振りダンスとの違をわきまへて
もう少しエレガントにやつて下さい。スラロームはどんな氣持が
しましたか？

佐藤 腰と膝の強い事は久保と共に双壁、直滑降でどん／＼滑
るのは良いが木に衝突しない様適當な所で廻轉々々。

河村 腰や膝を強くする様平素から體操でもやつて、トレーニ
ングを怠らぬ事。

大阪針葉樹會

小谷部、船本、天狗澤の下りはお苦勞様でした。水吞澤で寒い
中を一時間も待つた甲斐があり大塚等とゆつくり妙技を拜見出来
ました。關西の爲大いに頑張つて下さい。

豫科専門部の若い連中

兎に角スキーと雪面に馴れる事、三千回轉ばぬ中に廻轉をやつ
てのけようなどと言ふのはおこがましい。勇敢にドン／＼轉ぶ事。
シーハイル。

(一九四一・一・二四)

新體制下の山岳部

久保孝一郎

去る二月十一日紀元節式後社團法人一橋會は解散し、報國團結
成に向つた。同時に從來存在せる各運動部其の他の諸團體を一應
解散して新組織下に編入される事になり、創立廿年に垂々とす
る我が山岳部も一應發展的解消をして新しき再出發の途に上つ

た。學長の「俱學俱進」、常盤總務部長の「文武兩道」の標語も出る程新體制論が盛んであつた。即ち全學生を鍛鍊部に入れて心身鍛鍊を行ひ、延いては高度國防國家の建設の一端に資するのである。

試験終了後班幹部山田（從來の委員長）は、春休み中に行はれた數次の會合に出席し新體制への肚を固めた。本科部員十人内外で固い絆に結ばれた我々山岳部が、相當多數の班員を擁する班に膨脹することは疑ひもなく豫想され、更に此の親密な雰圍氣、先輩から繼いだ傳統を損はずして、否、彌々發揮して立派な班を創り度いと思ふ氣持は過渡期にある我々に重大な責任感と共に切實であつた。

何よりも先づ我々は、山岳班が他の班と異り日常的な練習の無い爲に樂な良い加減な態度で過せる班なりとして消極的破壊的なやどがり共の外殼化を恐れる。學年末の學生調査の結果山岳班希望者は五十名に近いので、如何にして是等のやどがり共を淘汰して、我々の意氣込んだ歩調に合はせて進み得る仲間を迎ふ可きかの對策を練つた。そこで從來の規約を殆ど根本的に改め、當分の對策として暫定的規約を設けた。（新體制組織が落着き次第本格的規約を作る豫定）。規約は全廿三條あつて、以下大體それに從つて重要な點を述べます。（書き出しが凄くて、我々ら針葉樹會報に如斯き調子の原稿を書くことは味氣ないのですが、新體制の聲高く、厚生[○]の社會化[○]口喧しき折ですから、御寛容の程願ひます。尙豫科専門部の新體制は全學生を修練組織下に編入する事は同様ですが、ハイキング班の如きものを設けて學生大衆をそれに收容

するので、大變化は無い模様です。然し一般に班員の増加するのは必然であります。）

扱、第二條に「國家的創造への參加を期する」とあります。是等は時局柄のものです。

第四條に班員を第一、第二の兩班に二分することを規定してある。前者は豫科、専門部班員たりしもので（第五條）、班の運営維持につき其の責に任ずる（第九條）。即ち從來の部員の様に合宿、集會等々の行事に參劃するのである。第一、第二班員の交流は班員の希望と班幹部の責任とに於て許される（第七、八條）。行事は第十七條に規定してあり、從來の行事以外に特別なものは、

イ、月例ハイキングと國立附近健康徒步旅行

ロ、高度國防國家建設を目指して年一回一晝夜行軍剛健旅行

（よくあるやつです）

以上の二で、第一班員はその指導の義務を有し、第二班員はイの行軍に年二回以上の出席義務（第十九條）ミロの出席義務（第二十條）を有する。會計は班費七圓で、第一班員より特別班費年額三圓を徴収する（第二十一條）。此の一般班費七圓の大部分を月例ハイキング及び健康、剛健徒步旅行に廻はし、參加者の交通費を殆ど無料に近い程（尤も場合によるが）にする方針である。最後の第二十三條に「班員たる名譽を汚したる者は班長之を除名す」とあつて、之は前述のやどがり共には身分的問題に關聯して來る新體制的な重大問題である。即ち若し班員にして特別の理由なくして心身鍛鍊の努力に不充分な點があれば、幹部はその指導の責任に於て忠告し、最後の段階に及べば總務部（從來の理事會

の更に企画性と權威を大にしたものゝにその除名を通達し、最悪の場合には退校の處分に迄分ぶ由々しき状態を惹起するのである。

以上の規約を四月十九日新入班員歓迎會席上に示して、規約熟讀勸考の上、之でやつて行けるさ自信のある人に更めて入班届の提出を求めて入班を許可するといふ甚だ御役所的な形式を執つた。而して五月初旬に決定した班員は無慮八十五名の多きに上り、一躍大世帯の班と並ぶ様になつた。現在では毎日同じ食卓で晝食を喰ひ、月例ハイキング等を通じて學校内で挨拶を交す程度の親しさになつてゐる。圖書、器具も一應借出しを許す方針であるが、來だ申込も無い。その出納を嚴にして散逸を防ぐ様、錠等をとつけて注意してゐる。

新體制組織活動以來二ヶ月弱を経てゐる今日迄の模様を述べる。月末に翌月の計畫をプリントに刷つて發表し、五月には大菩薩峠、九鬼山、三ッ峠、深大寺にハイキングを行ひ、参加者合計して約六十名、殊に大菩薩、九鬼山は賑かであつた。六月の計畫は尾瀬ヶ原、大藏高丸、扇山である。八十數名の班員中未だやどがりの分子の眼につかぬことは甚だ嬉しいことで、一般に岩と雪の山は別として近郊登山は好きらしい。

以上で大體新體制の御話は盡きた様です。次に今夏の計畫は、今年特別事業として昨年遭難した故友田君の追悼碑建設の爲一部五色原に滞在し、他の大多數は德澤を根據地にしてそれから計劃は未だ決定してゐません。昨年の經驗により西糸屋の因業ぶりに小梨平を止めて、固定用大天幕を德澤に移し、最近山田が西山

老人に米二俵程上げて貰ふことを約束して來ました。永持する食料を七月初旬德澤に上げる豫定です。皆様の登山を御待ちしてゐます。

最後に山莊建設案が具體化しつつあります。山岳部の山小屋でなく全一橋人の利用する様な山莊を學校側では學長、常盤總務部長、専門部、豫科主事が委員になり、學生側では山田が建設副委員長、小生、根本等が委員になり、來學年度に使用出来る様、秋迄には下檢分に行きます。交通の便あつて、俗氣少く、食料其の他物資の不自由でない場所が候補地としての條件で、大體蓼科、野澤温泉、志賀高原等が候補地になつてゐます。雜文を御容赦下さい。

松木謙三君より戰地便り (五月十四日附)

拜啓 本日留守宅より送附有之候針葉樹會報九十三號入手仕候會員の諸君何れも元氣にて昔に劣らぬ御活躍慶賀の至に存候。當地の如く岩山重疊として戰闘にもザイルを用ふるところにはペン、クマ、アラなど連れて來て活躍せしめなば好都合と被存、内地でござる遊ばして置くのは惜しき次第に御座候。

當地は四圍急の岩山にて平地にも山にも樹木無之、土地は砂に似て連日黃沙萬丈、トルキスタンの山を思はせ申候。諸君が動物園でなければ見れない羊の群、駱駝の群はあちこちに被見申候。最も不便なるは水質悪く、苦くて飲めぬことに御座候。水賣さ稱すべきか。一パケツ五錢位にて住民は販賣致居候。いづれ又、皆様に宜しく

敬具 (編輯者小柳宛)

北支派遣櫻井部隊本部小林部隊

松 木 謙 三

記 録

刈寄山 (四月二十五日)

中 川 孫 一

● 盆堀川の源流千ヶ澤をつめて、簀をくぐり市道山にとりつき、郡界尾根を東走次で北走わらびを手折りつゝ、刈寄山まで来ると残屑、空鑊、辨當殻、其他遺棄死體無數、聯盟情報部長よ、惡徳ハイカーを猛訓練せよ。

晩春の乗鞍

四月二十七日—二十九日

小 柳 二 郎

恵まれなかつた今シーズンのスキー運の挽回とばかりに、天長節のサンドキツチを利用して、豫て仕入れて置いた五尺七寸の逸物を擔いで出掛けた。二十七日は素晴らしい快晴で、鳥居尾根にはもう雪が無く、森林地帯に入つてやつと一息つけた。冷泉はどぅやらウルサ方が陣どつてゐるらしく、それに薄暗くて陰氣なので、暮に出来たばかりの位ヶ原山荘まで頑張る。小屋は廣いが、新しい丈にお粗末で、殊に二階などは荒削りの破目板が反り返つて隙間だらけで幸ひ三日間の滞在の中ちつとも風が無く暖かく過せたものの風に吹かれたら嘸かし寒い事だらう。他には二組のパーティがある丈で小屋はガランとして寒々しい感じだ。

翌二十八日、肩へ出ると飛彈側からの風はさすがに多少こたへたが、大した事もなく、よく締つた雪を簡単に頂上往復、遠い白

山と近い御嶽がとても印象的だつた。肩へ下つて南アルプスの銀屏風を眺め乍ら小屋の陰で悠々おつこめしたらスーッと身が軽くなつた。位ヶ原はウィンドクラストに薄い新雪が交つてベリくスーといった調子で、小屋上の好斜面も日射しが弱くてザラメに成り切らずブレイカブル氣味で、短スキーだけに却つて思ふに任せず。午後からは富士見岳の肩まで遊びに出掛ける。薄陽に氣温も上昇して、雪面が程よく軟化したので、ラインル・アレーを實驗？し乍ら快適な滑降を楽しむ事が出来た。

天祖山 (五月四日)

中 川 孫 一

低氣壓性豪雨臍を浸し、崖崩れ頻々。遂に中途退却、斷然再舉を期す。

美ヶ原

望 月 達 夫

五月十、—十一日 記事本文

立 山

中 島 孚 外 三 名

五月十一日 (曇後晴) 富山(五、五〇)—栗巢野(七、五〇)—八、一五)—材木坂から(八、四五)—ブナ坂造林小屋(一一、二〇)—二、〇〇)—弘法小屋(三、三〇)—三、五〇)—追分小屋(泊)
五月十二日 (薄晴) 追分小屋(七、一〇)—天狗小屋(八、五〇)—九、一五)—乗越小屋(一、〇泊)
五月十三日 (吹雪、追分小屋以下雨、富山曇) 乗越小屋(七、三〇)—雷鳥澤出合(七、四五)—天狗小屋(八、四〇)—九、〇〇)—追分(九、四〇)—一〇、一五)—藤橋(一、三〇)—富山(五、〇〇)歸阪
久し振りの山行きに張り切つて出掛けたがスキーを擔いで材木坂を登る丈でアゴを出し、天狗迄行く積りが追分泊りとなつた。

雪は弘法の少し下道で材木坂には全然なく、岩鏡やシヨウジヨウバカマの眞盛りだ。

第二日は七時に追分を出てゆつくり春の雪を満喫、雷鳥澤から乗越小舎泊り。天候は餘り面白くなかつたが兎に角翌日の劔行きにすつかり身仕度して寝る。

第三日、午前三時勇躍小舎を飛び出したが五月には珍らしいであらう相當な吹雪で斷念、又寝て七時吹雪の中を下る。新雪の雷鳥澤を飛ばし、地獄谷で五里霧中となり、天狗の方向が全然分らず約一時間半磁石をたよりにうろついて霧が上つて見るさ大體は天狗に向つてゐたが、相當な遠廻りをやつてゐた。更に天狗から弘法迄は快適に滑れたが、それ以下は雪が悪く、歩くのさ變らす。

小檜山 (六月一日)

中川孫一他一名

山も溪も新緑滴るが如く小鳥のさえずり之に和して矢作君(?)の絶賛を裏書した。金峯泉から焼山峠—金的石を経て小檜山に續く雑木林の中を行く山徑の快さ。殊に金的石附近の八房つつじの群生は六月の中旬が見頃で、ボツ／＼咲きかけてゐたが開花期はさぞ美しいことだらう。小檜山の山名これより出づさでも評したい程檜の若木が多い。秋が偲ばれる。

間の嶽のすばらしい残雪、農鳥を描く農鳥嶽、鹽見、赤石、聖と續く山波、城塞に様に天空にそゞりたつ金峯の五丈石、緑の海をなす甲府盆地、小檜山の眞價を知ることの何故にかくまで遅かりし。

降路は地圖に記された谷沿ひの平凡極まるコースをやめて、岩

の記號の多い尾根道をとるがよい。焼山峠からの高原狀の往路とはうつて變つた岩場的スリルは一層小檜山のよさを増すであらう。

中ゴ—尾根より谷川岳

吉澤一郎

六月七—八日 記事本文

針葉樹會定例集會 五月二十三日(金) 於如水會館

出席者(會員) 吉澤(一) 高見、丸茂、堀岡、小柳、林、柿原、小谷部、望月、佐々木、大塚、(部員) 久保、根本、桧淵、小泉、小林、佐野、前田

雨男から晴男に轉向したと稱する林君、病氣で會社を休んでゐた小谷部君など久し振りに元氣な顔を見せた。席上會も近頃何となく沈滞氣味で、會報も四角張つてゐて面白くないぢやないかといふ話してから、「それは近頃會員同志あまり山へ行かないからだ。」「それもそうだ。それに一つ近い内に盛大な飲み會をやらうぢやないか。」之には全員異議なし。又「今度から例會の時に、最近の山行について一人／＼簡単な報告をする事にしたら」「成る程最近の情報を得るためにも、又會報の記録を充實させる上からも確かに名案だ」と云つたわけで、忽ち名論卓説が飛び出す。

この日、學生側から重要な報告が二件あつた。その一は、學園の新體制に伴ふ一橋山岳部の改組と將來の指導方針に就て、あり、他は、昨夏山に散つた故友田純一君の追悼記念事業に關するものであつた。前者に就ては別項「新體制下の山岳部」を

参照して頂くとして、後者について簡単に之を要約して見やう。

友田君追悼事業は追悼録の發行と、追悼記念碑の建設の二つから成りその内追悼録の方も編輯も終つて既に印刷屋に廻つてゐる由であり、記念碑建立についても着々下準備を整へこの夏休みを利用して部員自らの手で、遭難現場附近に適當な地點を選んで建設する豫定である。そして、右に要する費用約四百圓の内、學校當局で百圓、部員據出が五十圓、校内の寄附金が百五十圓、残りの百圓を針葉樹會員に負擔して頂き度いといふ話して、異議なく承認し、會員據出の件は孫さんに一任と決つた。

尙、この席上、一橋新聞の記者がクマさんをつかまへて、例のイタリ行の件で一問一答よろしくあつて彼氏アツパレ名士たるの資格を證明するといつた一幕があつて、一同を喜ばせた。

針葉樹會臨時懇親會 六月六日(金) 於數寄屋寮

出席者(會員) 中川、吉澤(一)、村尾、近藤、高橋、磯野、手塚、久保田、増山、丸茂、堀岡、小柳、林、柿原、望月、小谷部、岩崎、大塚、(部員)久保、根本、小林

久し振りに河岸を變へてと衆議一決しての會だけに未曾有の盛會、中川、磯野兩兄の御持參和洋酒にすつかり元氣づいて何年振りか思ひ出懐かしい話が湧いた。近ちゃんの手相も増々その凌えを見せた。

針葉樹會定例集會 七月二日(水) 於如水會館

出席者(會員) 吉澤(一)、高見、増山、堀岡、小柳、柿原、林、小谷部、大塚、佐々木、森脇、(部員)山田、根本、宮城、林、河村、佐野、久保

部員より夏山計畫の説明、及び故友田君の追悼事業の經過報告を聞く。針葉樹會として追悼事業に援助することを相談する。

臨時針葉樹會 七月十三日(日) 於如水會館

出席者 望月、松浦、中川、吉澤(一)、村尾、鈴木、山口、太田、増山、堀岡、小柳、柿原、小谷部、小林、森脇、以上十五名、

望月達夫君、松浦靜雄君に突如お召しがあつて、七月十五日勇躍入隊の報に接し、急遽如水會に集合する。

一同日章旗に署名して、中川君より兩君に贈呈し其の行を盛にした。尙松浦君は即日歸郷。

針葉樹會定例集會 八月十五日(金) 於如水會館

出席者(會員) 中川、村尾、渡邊、高見、堀岡、小柳、柿原、林、大塚、岩崎

(部員) 宮城、山田、久保、清水、根本、佐野、高野、松下、小林、以上十九名

部員より今夏豫定の通り記念碑の建設が出来た旨報告あり、會よりは大塚君が代表し部長、遺族代理等、部員も殆ど全員參加された由。尙會代表中川君より部へ會員據出の追悼事業費を贈つた。尙九月上旬お月見を會を開く事を決めた。

消 息

和田 榮達君 四月十五日、村上和子様と御結婚、下記に新居

を営まれました。神戸市灘區篠原町三ノ八四八

増山清太郎君 (住所變更) 杉並區成宗一ノ八七

(青バス萩窪線成宗消防署前下車)

高木 英二君 (住所改正) 兵庫縣芦屋市伊勢講田五四五

黒田 正治君 (住所改正) 兵庫縣芦屋市打出字郷ノ本十六

中島 孚君 (住所訂正) 兵庫縣武庫郡瓦木村高木字碑田九

中川 孫一君 此度企畫院第二部第三課に轉出し、囑託として

戦時下、物動計畫の樞機に參畫される。

高見 要君 此度帝國滿鐵株式會社財務課へ移らる。

(電話銀座(57)七八二一番)

渡邊 九郎君 八月五日 次男出生豪(スグル)と命名。

名簿訂正 (其ノ一)

村尾 金二君 電話番号、丸ノ内六二一〇に變更。

吉澤松次郎君 住所、一四八〇番地を一四八二番に訂正。

勤務先、文藝部を音楽部に訂正。

岡田 謙三君 住所、目黒區平町七二番地に移轉。

勤務先、三菱商事株式會社燃料部。

黒田 正治君 肩書の應召中を削る。

林 俊介君 電話局名青山を澁谷に訂正。

佐々木 誠君 住所、澁谷區千駄ヶ谷二ノ四一九

電話青山一五〇三番

山田 亮三君 住所、一〇〇五番地を一〇〇五二番地に訂正。

深谷 光茂君 本2を本3に訂正。

神 浩君 削除

小林 卓之君 削除

前田 道夫君 住所、(鎌倉市扇ヶ谷一八一 村上方)

(鎌倉一五八六)

山之内正之助君 (新入部員) 杉並區和田本町九一四

六月に數寄屋寮の會で會報の編輯係をお引受けしてから早くも數ヶ月経つてしまひました。第一回から此の様に遅らせて誠に申譯けなく存じます。次は引續いて出す豫定で居りますが、原稿不足で困つて居ります故、記録でも、消息でも、御感想でも簡單なもので結構ですから、諸兄舉つて御寄稿せられんことを切に希望致します。

先程、前幹事小柳君の御盡力で出来上つた名簿をお送り申上げましたが、誤りの點がありましたら至急お知らせ下さい。又今後變更がありましたら編輯係でも他の幹事でも宜敷いですからお知らせ下さい。

尙、本年度の幹事は左の通りです

會計 堀岡 清 中野區中野驛前二四中野莊(電話日本橋三五二)

會報 林 俊介 澁谷區北谷町四九(電話京橋三七八二)

集會 小谷部全助 品川區大井元芝町八四九(電話丸ノ内三三二)

漸くすがすがしい秋晴れの頃となりました、諸兄の御活躍の記録の多く集る事を祈つて居ります。

(林記)